

APFED 第2フェーズ第2回全体会合の概要

2006年7月31日～8月1日に、オーストラリア・アデレード市にて開催されたアジア太平洋環境開発フォーラム第2フェーズ(APFED)第2回全体会合における主な協議結果は、以下のとおり。

1. APFED の活動全般について

知識イニシアティブ、政策対話、ショーケース(パイロット・プロジェクト支援)・プログラムを中心としたこれまでの作業の進捗について前向きな評価がなされ、更なる進展に向けた取組を進めることで合意された。

その他、下記の諸点等を考慮し、APFED 活動を推進していくことで了解された。

- (i) APFED の活動テーマを、CSD(国連持続可能な開発委員会)の活動テーマとリンクすることを検討
- (ii) 優良事例、特に APFED 賞受賞事例のフォローアップを重点課題として取り組む
- (iii) APFED 最終報告(2004)にある100以上ある提言を、実施可能性や難易度などから分類して、そのフォローアップの方式を検討・実施する

2. 知識イニシアティブ

APFEDI の議長であった故橋本龍太郎元総理の名が冠せられた橋本龍太郎 APFED 賞が、下記の3団体に授与された。これらの団体の活動はいずれも、持続可能な開発・環境管理を効果的に実施する革新的な取り組みを行う優良事例であると評価された。

- (i) ヴァージン・ココナツ・オイル生産による農村経済の復興(ココナツ・パシフィック有限公司、ソロモン諸島)
- (ii) 生活に息吹を与えるグムホ川 河川浄化プロジェクト(ヤン・ユンスク、テグ市、大韓民国)
- (iii) クリスティー・ウォーク エコシティー・プロジェクト(エコポリス建築事務所、オーストラリア)

第1回 APFED 表彰制度が幅広く歓迎され、受賞事例についても賞賛と関心が示された。下記の諸点について留意し、同制度を運営していくことで了解された。

- (i) APFED 表彰制度の広報・一般周知の強化
- (ii) 応募案件の地域的・分野別配分、途上国支援との関連性
- (iii) 案件の課題別ばらつきと優先課題の設定の有用性

優良事例データベースについて、より効果的な活用が期待できるような発展・管理を目指すべきで、概要を母国語で記すなどの工夫も有用との意見が出された。

3. 政策対話

政策対話のこれまでの成果が歓迎され、事業計画についても下記の点に留意して活動を進めることで了解された。

- (i) 既に実施された「環境情報へのアクセス」及び「3R 推進」の政策対話については、政策形成や実施支援に向けたフォローアップの実施
- (ii) アジア・太平洋地域において戦略的に重要な政策課題を特定すべき
- (iii) 今後予定される「環境管理における CSR」および、「化学物質管理」については、複眼的・アジアの視点で、適切な協力団体を特定し、政策転換の推進を意識すべき

4. ショーケース・プログラム

ショーケース(パイロット・プロジェクト支援)・プログラムの進展が歓迎され、下記の諸点につき留意して、その実施を進めることで了解された。

- (i) 幅広くプログラムの周知・応募奨励を行う(応募締切日は9月末に延期された)
- (ii) 手続き・運営は、簡潔・合理化
- (iii) プロジェクトの広報・情報共有、モニタリング・記録・評価の効果的実施、を行うことが重要
- (iv) 革新的な取り組み・斬新な発想に基づくプロジェクトの発掘・選考
- (v) IGES や、国連環境計画・アジア太平洋地域事務所(UNEP/ROAP)、NetResメンバーとの連携

5. アジア・太平洋戦略研究機関ネットワーク(NetRes)

アジア・太平洋戦略研究機関ネットワーク(NetRes)の制度化・活動の活性化に向けた、NetRes 設立文書及び覚書(MoU)の署名式典が行われ、韓国環境研究所(KEI)、シンガポール国際問題研究所(SIIA)、タイ環境研究所(TEI)、インド・エネルギー研究所(TERI)及び我が国の地球環境戦略研究機関(IGES)の代表より関連文書の署名がなされた。

その他、下記の諸点に留意して、NetRes の活動促進を進めることで了解された。

- (i) NetRes メンバー間の連携強化と管理体制の発展
- (ii) 産業部門の研究機関との連携
- (iii) メンバーの能力(キャパシティ)向上
- (iv) IGES の役割遂行の強化等

6. 他のネットワークとの連携

APFEDと関連するネットワークとの連携の重要性が強調され、特に、ASEF(アジア・欧州環境フォーラム)、ADB/AECEN(アジア開発銀行・アジア環境履行実施ネットワーク)、国連アジア太平洋経済社会委員会グリーングロース(ESCAP・Green Growth)等のネットワークと下記の諸点に留意し、具体的な連携を進めていくことで了解された。

- (i) 共通のステークホルダーとの連携強化
- (ii) テーマ別の連携
- (iii) APFED のワークショップなどの特定の事業活動を通じた連携